

やなぎまちしょうてんがい

## 柳町商店街

## (郡山柳町商店街協同組合)

奈良県大和郡山市柳

10年かけて 時の若者達で  
「金魚が泳ぐ商店街」を実現

## 取組の背景

金魚をきっかけに店主とお客様との  
コミュニケーションを深める

商店街のある大和郡山市は、大阪、京都への交通の便がよく、古民家が若者向け住宅に改築されて、若い世代の移住が進んでいる。商店街では、誰でも参加できる会議「なんとか志隊」の発足、廃業した店舗を改装したレンタルスペースへの域外からの出店や、地域出身の若手デザイナーの開業などを機会に、従来とは異なるイベントが実施されるようになった。たとえば、商店街内の神社と協働しての商店街キャラクターを冠した「柳神くん祭」を開催した。行政や観光協会、さらには域内の住民や学校の協力を得て、市内で初めて長時間車輛通行止めにし、賑わう祭となった。このようななか、

地域に金魚が泳いでいる場がないと若手からの提案があり、商店街に金魚カフェが開設され、行政の協力も得て、徐々に商店街内に水槽が増えていった。

2020年、理事長が若手に代替わりし理事メンバーも40歳代が多数を占めるようになった。理事長は10年前から金魚を地域コンテンツにする提案をしていたことから、金魚が泳ぐ商店街を本格的に目指すことになった。金魚ストリート実行委員会を立ちあげ、理事だけでなく若手店主らも自由にアイデアを提案し、毎月議論した。商店街のブランディングや観光客の誘致といった専門性の高い分野は、商店街よろず相談アドバイザーや商工会、観光協会をメンバーに入れ助言をもらった。また地域の金魚養殖業者や販売業者による勉強会も行っている。

## 取組の内容

金魚ストリート事業で、  
金魚が泳ぐ商店街を目指す

2020年は、新型コロナウイルス感染症が拡大したため、金魚ストリート事業では、感染防止対策だけでなく、アフターコロナも見据えて協議した。各店舗に水槽を設置し、商店街を回遊するだけでなく、金魚で会話がうまれる施策とした。「泳ぐ金魚・生態」を観察する体験の仕掛けとして30店に30の水槽をおいて30種の金魚を泳がせて、商店街全体で金魚を見て歩ける「まちなか金魚水族館」で来街来店を実現した。11月22日の柳神くん祭では、9千人が来街した。「金魚名称当てクイズラリー」で回遊してもらい、各店舗では金魚をモチーフにした特徴ある商品売り出した。クイズ台紙は商店街マップを兼ね、イベント当日の一過性に終わらず、翌日以降の再来街も促進している。

これまで商店街は一過性の集客にこだわりがちだったが、金魚ストリート事業により、店主と顧客が「金魚」をきっかけにコミュニケーションを深め、信頼関係を形成できている。「住むまちの魅力を体感できる場」として

商店街が認識され、商店街と協働できるファンを獲得していく。信頼感は一過性ではなく個店の努力によって長く保たれるものであり、将来にわたって「この店にお金を



各店の水槽を巡る回遊の仕掛け「御金魚帖」集印



店頭の水槽に泳ぐ金魚を愛でる「まちなか金魚水族館」

使う」ということにつなげる。この関係を保ち、繁盛する店をつくり、繁盛する店が増えることで商店街が活性化し、さらにはまちの活性化につなげる。

新しい視点で着眼した地域資源（泳いでいる金魚）は、古参店主が身近すぎて気づかなかった古くて新しい魅力を作り出した。

## 取組の成果

## 若手の新規出店と新たな企画提案

商店街では、デザイナーの若手店主の紹介で地域外からの新規出店が増えている。地域外に住むオーナーが、空き家になった実家をレンタルスペースに改修し、

本屋やガラス工芸店を誘致するなどの方策で、2010年から2020年の10年間に商店街で6店舗新たに出店した。また、若手や外部から新たな企画提案が増え、新しい視点の企画が実現し、市民から高い評価を得ている。金魚をモチーフにした商品を開発して販売した店舗では、来店客を増やし商品の売上げに繋げている。

## 実施体制

商店街理事会は50代の理事長と30代から60代のメンバーで構成。事業は誰でも参加できる定例会議「なんとか志隊」でアイデアラッシュ、理事会を経て迅速に実行に至る体制が構築されている。2020年度の金魚ストリート実行委員会は、理事数名と若

手を中心に観光協会も含めたメンバーで構成。合議したプログラムごとにチーム制で企画運営し、会議で情報共有しつつ行政や商工会の協力も得て実行した。毎回議事録を作成し、全組合員に情報共有を図りモチベーションの向上、ベクトルをあわせることにつとめている。来年度以降は、商店街内の住民や他団体の参加をさらに促し、企画を実行する予定である。

## キーパーソンからのコメント

## 金魚の水槽を置くことだけが金魚ストリートではありません

自分たちの商店街が、地元のシンボルでもある金魚に溢れている場所にしたいと考え、10年をかけてやっとここまでできました。商店街で身近に金魚を見れないとの声を聴き、約10年前に商店街のコミュニティスポットに3台の水槽を設置し金魚の飼育を始めました。それが現在は30店舗の30水槽に30種類の金魚が泳ぐ商店街になることができました。金魚は生き物で

す。日頃のメンテナンスをしっかりし管理をしても死んでいく金魚もいます。美しい金魚ストリートを持続して行くのは我々だけでは無理があります。できないことも沢山あります。今後はより一層、観光協会などの諸団体や行政、住民と連携しながら、まだ見ぬ金魚ストリアートの完成に向けてがんばっていきたく考えています。



郡山柳町商店街協同組合 理事長 北谷光徳

## 商店街の概要

大和郡山市は、豊臣秀長が郡山城主としてまちを区割りして治政し、商人集積のまちとして発祥した。その後、金魚養魚・メリヤス産業で活況し150店舗が並んだ。近隣に遊郭が存在したことから、呉服・貴金属を扱う店も軒を並べた。高度成長期に生鮮三品の揃う市場から百貨店まで集積し、奈良県内から買い物客で賑わった。メリヤス産業の衰退や量販店の進出で、現在は約40店程度に減少している。近年は、金魚の泳ぐ商店街として観光客が増え、域外から若手経営者の出店が増えている。近鉄・JR最寄り駅から近く、市役所に隣接した城下町情緒のある商店街である。

所在地 奈良県大和郡山市柳  
人口 約9万人(大和郡山市)  
電話 090-1486-5200 (北谷)  
FAX なし

URL <http://yanagimachi-st.jp/>  
会員数 34名  
店舗数 34店舗(小売業24店、飲食業5店、サービス業3店、金融業2店)

商店街の類型 単独型  
主な客層 主婦、高齢者  
/60歳代、50歳代